

倉敷市

倉敷市の「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」に向けた取組

倉敷市では、平成18年から精神保健医療福祉関係機関とネットワークの構築を目指し、課題の共有を行ってきた経緯があり、平成22年に自立支援協議会精神部会として位置づけた後は、地域移行・地域生活支援に関する検討、取り組みも行ってきた。令和2年から「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」のための“協議の場”を設置し、保健医療福祉等関係機関のネットワーク強化、地域移行等の課題に対しての支援技術向上を目指し取り組んでいる。

令和5年からは、ピアサポートコアメンバー会議を立ち上げ、倉敷市でピアサポート活動を推進できる事業、支援体制等の検討を始め令和6年10月から倉敷市ピアサポート活動支援事業を開始している。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

倉敷市



取組内容

- 精神保健医療福祉体制の整備に係る事業として、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場（倉敷地域自立支援協議会精神部会等）を開催
- 普及啓発に係る事業として、くらしき心ほっとサポーターの人材育成、精神障がいに対する正しい理解の促進と偏見除去につなげる住民向け心の健康づくり講座、チラシ配布、健康教育等を実施
- 当事者、家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業として、ピアサポート活動支援事業、精神障がい者を支える家族のための教室を実施。

障害保健福祉圏域数（R8年4月時点）	1	か所
市町村数（R8年4月時点）	1	市町村
人口（R8年4月時点）	469,313	人
精神科病院の数（R7年4月時点）	6	病院
精神科病床数（R7年4月時点）	854	床
入院精神障害者数（R6年6月時点）	合計	624 人
	3か月未満 （％：構成割合）	159 人 25.5 %
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	120 人 19.2 %
	1年以上 （％：構成割合）	345 人 55.3 %
	うち65歳未満	109 人
	うち65歳以上	236 人
退院率（R●年●月時点）	入院後3か月時点	%
	入院後6か月時点	%
	入院後1年時点	%
心のサポーター養成者数		0.0 人
相談支援事業所数（R8年4月時点）	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	16 か所
	特定相談支援事業所数	43 か所
保健所数（R8年4月時点）		1 か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R7年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	55 回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R8年4月時点）	都道府県	有・無 1 か所
	障害保健福祉圏域	有・無 / か所／障害圏域数
	市町村	有・無 1 / 1 か所／市町村数

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

地域の事業所やピアサポーター
が協働して病院交流会を実施

精神医療保健福祉と障がい福祉分野、
高齢者福祉分野の関係者が学びあう

地域移行

障害福祉・介護連携

リカバリーの促進、地域移行、精神障がいの
理解と偏見除去を大切にした活動を実施

ピアサポート活動支援事業

家族教室

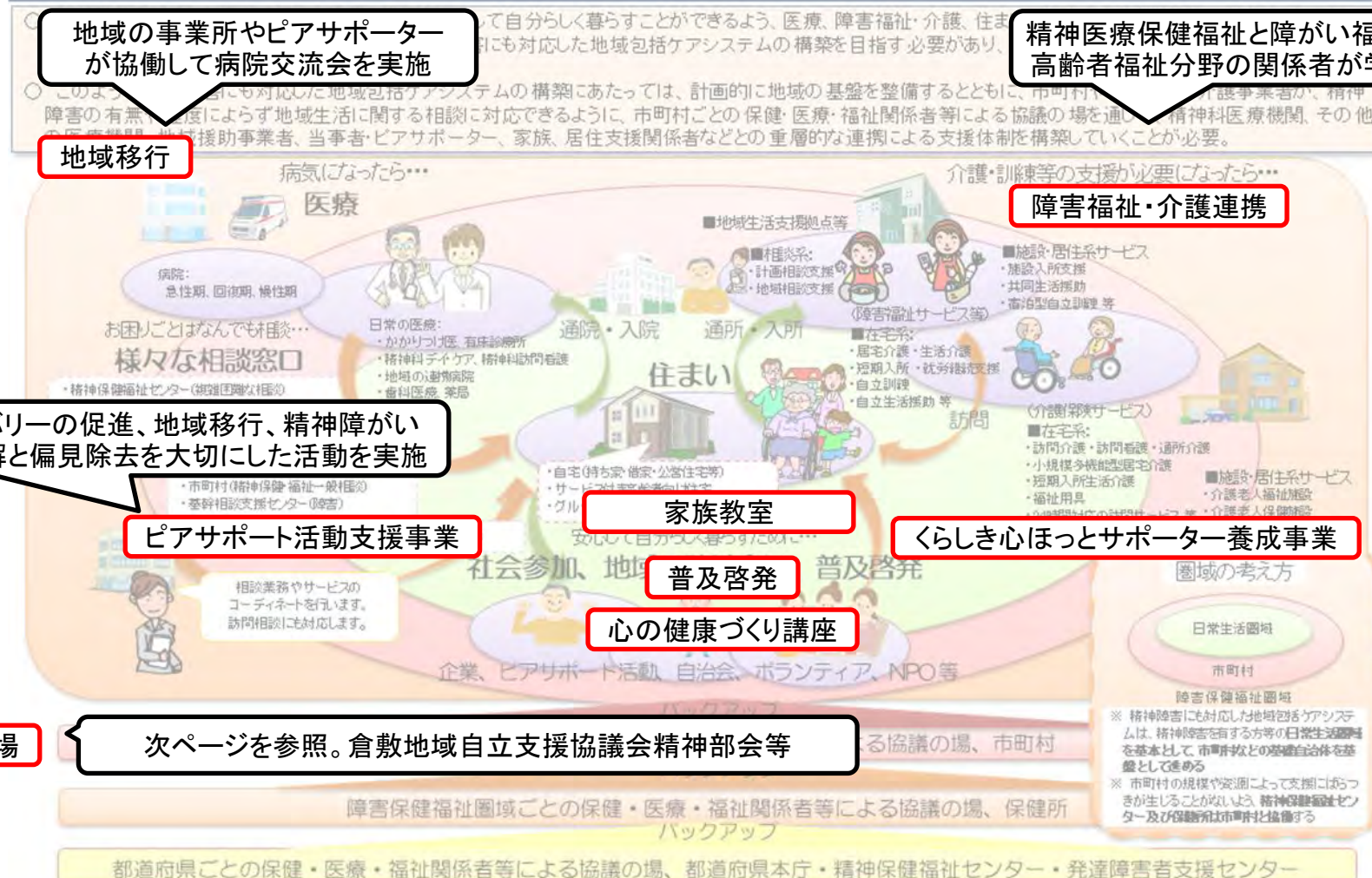
くらしき心ほっとサポーター養成事業

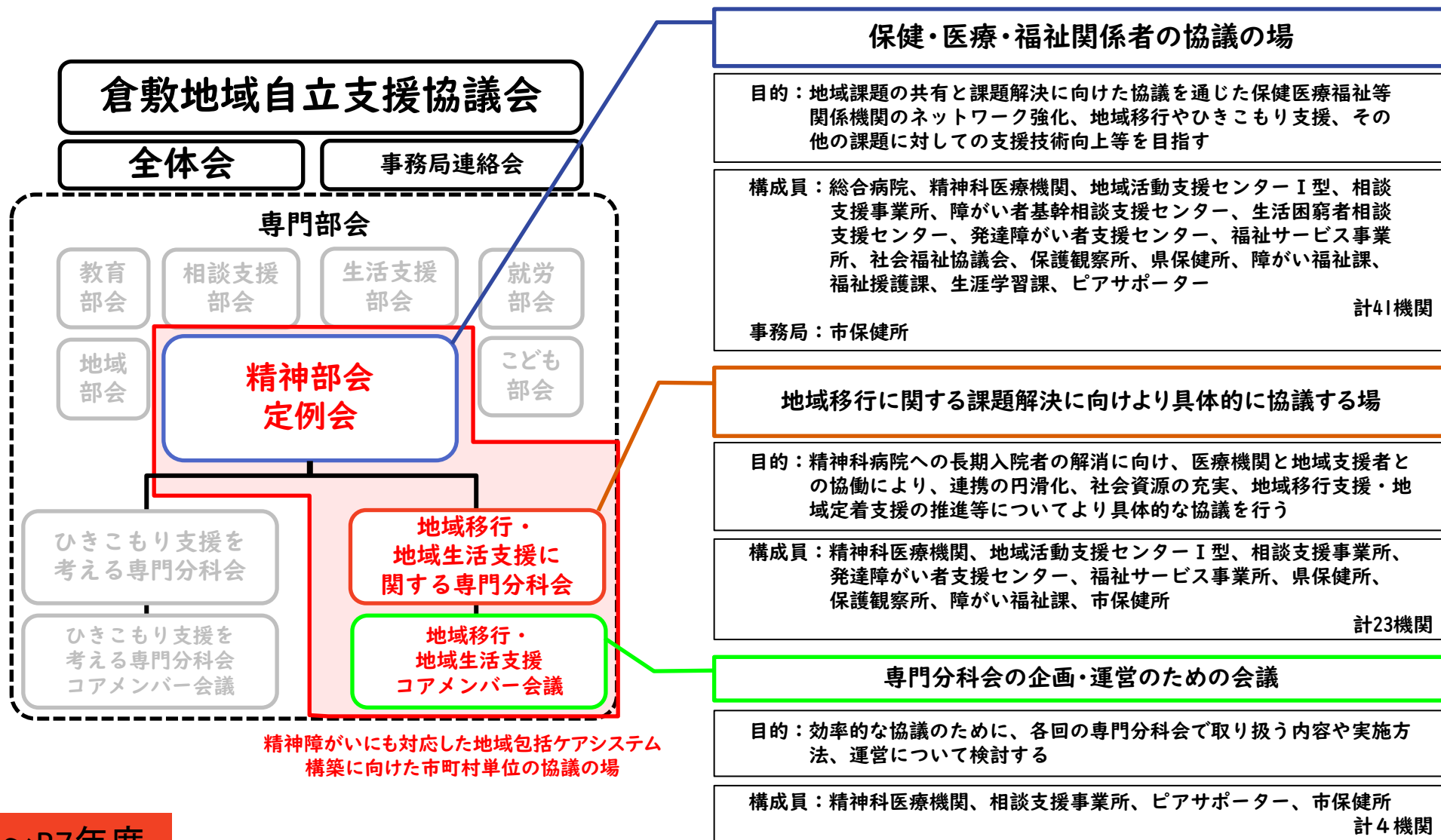
普及啓発

心の健康づくり講座

協議の場

次ページを参照。倉敷地域自立支援協議会精神部会等





- 平成18年～ 精神保健医療福祉関係機関とのネットワークの構築、課題の共有を開始。
- 平成21年～ くらしき心ほっとサポーターの養成講座を実施。
- 平成22年～ くらしき心ほっとサポーターの活動開始。
倉敷地域自立支援協議会精神部会（以下、精神部会）として位置づける。
- 平成23年～ 課題の方策を検討するために精神部会における委員会活動を開始。
社会資源マップの作成、広報活動（地域移行について）、研修企画等
- 平成27年～ 倉敷市地域移行支援連絡会の開催。
地域移行の個別給付件数増加（H27→6件，H28→16件，H29→12件）、精神科病院内に地域の人が入りやすくなり退院支援に関与する人の増加、退院に向けた支援体制整備の充実等の変化がみられる。
- 平成27年度～ 岡山県ピアサポート支援事業を受託した市内NPO法人がピアサポート活動を開始。
- 平成28年～ 精神部会における委員会活動の中で、ピアサポート活動について活発に意見交換される。
- 平成29年～ 精神部会の下部組織として、「地域移行・地域生活支援に関する専門分科会」、「ひきこもり支援を考える専門分科会」を設置。
- 令和元年度 市内NPO法人が岡山県ピアサポート支援事業の受託終了。
- 令和2年～ 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」のための“協議の場”として精神部会を位置づける。
- 令和5年～ 精神部会「地域移行・地域生活支援に関する専門分科会」の中に、「ピアサポートコアメンバー会議」立ち上げ。倉敷市におけるピアサポート活動で目指すもの、登録派遣事業や普及啓発の在り方等、経験者の意見を尊重しながら協議開始。病院交流会再開。
- 令和6年～ 10月より倉敷市ピアサポート活動支援事業を開始。
- 令和8年～ 精神部会の「ひきこもり支援を考える専門分科会」を市ひきこもりステーション事業のネットワーク事業に集約し、新たに「地域課題検討会」を立ち上げ。

＜R 7 年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R 7 年度当初)	実績値 (R 7 年度末)	具体的な成果・効果
①自立支援協議会精神部会定例会 地域移行・地域生活支援に関する専門分科会 地域移行・地域生活支援コアメンバー会議 の開催回数	4回(定例会) 3回(専門分科会) 4回(コアメンバー会議)	4回(定例会) 3回(専門分科会) 1回(コアメンバー会議)	定例会は、個別支援における課題や当事者の声を発信出来る場として地域課題の抽出ができた。また合わせて実施した支援技術向上研修で44名の参加を得た。 専門分科会では、長期入院者、特に高齢者の地域移行について、地域包括支援センターと現状共有し、分野を超えた連携について協議することが出来た。コアメンバー会議は定例の実施は1回とし、随時の意見交換等を実施した。
②倉敷市におけるピアサポート活動支援事業の実施	【登録派遣事業】 ・体験発表8回 ・病院交流24回 【人材育成】 ・フォローアップ研修1回 ・ピアサポート連絡会1回 ・コ・サポーター連絡会3回	【登録派遣事業】 体験発表8回 病院交流24回 【人材育成】 フォローアップ研修1回 ピアサポート連絡会1回 コ・サポーター連絡会3回	【体験発表】 延333人受講、活動したピアサポートチーム員延64名 【病院交流会】 市内2カ所の精神科病院で延846人の入院中患者と交流、活動したピアサポートチーム員延237名 【人材育成】 ピアサポート連絡会参加者11名、コ・サポーター連絡会延33名 事業に関する普及啓発活動として社会福祉協議会、地域住民、市内教育機関等へ事業案内を実施した。

【特徴（強み）】

倉敷地域における医療機関、福祉事業所、行政等が定期的に協議する場があり、専門分科会等の企画運営から、医療、福祉、保健部門で協議が出来る。顔の見える関係が構築されネットワーク化が進んでいる。ピアサポート活動を推進する体制があり、徐々に活動が認知されてきている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割（取組）	
【地域移行に関すること】 ・精神部会専門分科会を通じた地域移行を促進する取り組みの継続 ・高齢者福祉分野と障害福祉分野との円滑な連携	①地域移行支援に関する事例検討の実施 ②高齢者福祉分野と障害福祉分野との連携等の課題の共有、高齢者支援センターを招き協議会の場で顔が見える関係性の構築	保健	事例検討の企画、関係機関の参加調整
		医療	検討事例や検討の場の提供
		福祉	各々の立場で検討へ参加し地域移行支援の計画検討
		その他関係機関・住民等	検討後の地域支援への協力
【ピアサポート活動支援事業に関すること】 ・ピアサポートの普及啓発と人材育成	①精神部会を活用し、ピアサポート活動の更なる普及啓発や事業拡大のために専門職とピアが協働出来る基盤をつくる。 ②ピアサポート活動促進に向けた協議の場としてピアサポート連絡会、人材育成の場としてフォローアップ研修を実施。	保健	事業全体の普及啓発と人材育成・フォローアップ
		医療	新たな人材確保のための情報提供と事業活用
		福祉	活動の場の確保に向けた普及啓発
		その他関係機関・住民等	ピアサポート活動支援事業の活用や感想の発信

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (R 8年度当初)	目標値 (R 8年度末)	見込んでいる成果・効果
①自立支援協議会精神部会定例会等協議の場（精神部会、専門分科会、課題検討会）の開催回数	年間 9 回	年間 9 回	関係機関のネットワーク強化、地域移行の推進、新たな地域課題解決への方策検討
②ピアサポート活動支援事業の活用状況	体験発表 8 回	体験発表 8 回	精神疾患や精神障がいの理解促進、差別偏見の除去
③病院交流会の開催回数	病院交流会24回	病院交流会24回	入院者の退院意欲喚起、及び地域支援者の退院支援意欲の喚起

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

【にも包括構築の体制】

精神科病院、障害福祉サービス等事業所、保健所、庁内関係課、当事者等が参画する自立支援協議会精神部会にて、にも包括構築にむけた協議の場を設置

所管部署名（※）	所管部署における主な業務	連携部署・機関名	連携部署・機関における主な業務
倉敷市保健所 保健課精神保健係	精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院）の申請受付、精神保健対策についての企画・実施、にも包括構築の協議の場の企画運営等	障がい福祉課	障がい者（身体・知的）手帳の受付、3障がいの福祉サービス利用に関する相談、支給決定等、障がい者基本計画・障がい福祉計画策定
		福祉援護課	生活困窮者支援、高齢者・障がい者の権利擁護、緊急援護等に関連する業務
		生涯学習課	市民講座、家庭教育支援事業、ひきこもりや不登校等の当事者保護者向け情報発信等
（※事務局を担当する部署）			

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	岡山県精神保健福祉センターとのアウトリーチ連絡会や研修会、県備中保健所との連絡会等が行われている。	にも包括構築のための素地が県全体として醸成されており、円滑に連携を取れる体制が作られている。
医療	協議の場には市内病院、クリニックのこメディカルの参加が中心。ピアサポーターも参加する病院交流会を一部医療機関で実施している。	コロナ禍後に、一部の精神科病院では交流会を再開できた。協議の場には実務者の立場の参加が多く、現場の声が届く反面、各機関の方針決定等への直接的な影響力は十分ではない。
福祉	障がい部門、生活困窮部門は協議の場に参加。高齢者福祉部門とは必要に応じた協議の場への参加要請や調査協力依頼等を行っている他、研修における企画や講師協力等を相互に行っている。	障がい部門との連携体制は構築できている。重層的支援体制整備事業の実施にともない、生活困窮部門や高齢部門との連携も必要に応じて取れているが更なる協働が必要。
その他関係機関・住民等	精神障がいの理解と偏見除去に取り組む市民ボランティア“くらしき心ほっとサポーター”と協働で啓発活動を行っている。	サポーター自らが積極的に当事者と交流し、理解を深め、市と共同かつ市民目線で普及啓発に取り組んでいる。サポーターの人材確保が今後の課題になる。

※各部門の状況はできるだけ詳しく記載ください

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	既存の会議体を活用している場合はその名称・課題・強み等
倉敷地域自立支援協議会精神部会	保健：市・県保健所	年 4 回	最新の施策・地域課題等の共有、方策の提起、スキル向上	保健、医療、福祉で顔の見える関係を築くことが出来ていることが強み。精神部会の定例会と各専門分科会との連動が必要。抽出した課題や声を具体的な方策につなげていくことが課題。
	医療：精神科病院、総合病院、精神科診療所、訪問看護ステーション			
	福祉：障がい福祉課、基幹相談支援センター、障がい福祉サービス事業所、社会福祉協議会、地域生活支援センターⅠ型、発達障がい者支援センター、生活自立相談支援センター、福祉援護課			
	その他関係機関・住民等：当事者、ピアサポーター、保護観察所、教育委員会			
地域移行・地域生活支援に関する専門分科会	保健：市・県保健所	年 3 回	地域移行に関する課題の共有と方策について協議	課題の共有はできており、病院交流会の活動を安定して行うことが出来ている。精神部会の取り組みとして今後どうしていくのか方策の協議や実施に向けての働きかけが課題。
	医療：精神科病院、精神科診療所、訪問看護ステーション			
	福祉：障がい福祉課、障がい福祉サービス事業所、地域生活支援センターⅠ型、発達障がい者支援センター			
	その他関係機関・住民等：保護観察所、当事者、ピアサポーター			

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	既存の会議体を活用している場合はその名称・課題・強み等
地域移行・地域生活支援専門分科会 コアメンバー会議	保健：市保健所	年3回	地域移行専門分科会の企画運営についてコアメンバーと協議	保健部門だけではなく、医療、保健、福祉で協議して企画運営を検討していることが強み。地域活動支援センターI型の参画を促していくことが必要
	医療：精神科病院			
	福祉：相談支援事業所			
	その他関係機関・住民等：ピアサポーター			

【その他事項】

※協議の場の運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載してください

10 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（短期）

到達目標 (R 8 年度)	- 地域移行促進のため地域支援者と医療機関職員とが情報交換や事例検討をする場を設ける - ピアサポート活動の普及啓発により活動の場の確保と人材育成を進める - 新たな地域課題の把握と方策の検討のための場（地域課題検討会）を設け、関係者で協議する
------------------	--

時期（月）	実施内容	具体的な取組
R 8 年度	【協議の場】 - 精神部会定例会 - 地域移行・地域生活支援に関する専門分科会 - 地域課題検討会 【ピアサポート活動】 - ピアサポート連絡会 - フォローアップ研修会 - コ・サポーター連絡会	- 本市全体の「にも包括」構築状況や指標の共有、参加者間の情報交換、専門分科会の活動内容の報告、資質向上のための研修実施 - 医療機関職員と地域支援者が情報交換や事例検討を実施する場の設定を検討、参加機関から関係先に働きかけ少なくとも1回は実施する - 精神部会定例会参加者やその他関係者から把握された地域課題について優先順位を検討し、最優先課題についての方策を検討する - ピアサポート活動拡大のための普及啓発についてピアサポーターを含めて検討する - 参加者各々でリカバリーストーリーを作成し、体験発表等の活動に臨みやすくする - ピアサポート活動支援事業でのチーム活動に関する課題等を共有し、対策を検討する